

2 防災学習・安全教育の充実

(1) プログラム開発の背景

近年、胆振東部地震や大型の台風、大雪など、これまでに経験したことのない規模の災害が起きている。また、南海トラフ地震や日本海溝・千島海溝周辺の高溝型地震など、近い将来起きうるであろう未曾有の災害に備えるためにも、国や地方自治体をはじめ、地域住民や個人においても災害時の備えや減災に向けた取組の重要性が叫ばれている。

「北海道地域防災計画」においては、「道民に対する防災思想・知識の普及・啓発および防災教育の推進により、地域における防災活動の的確かつ円滑な実施が推進されるよう努める」とした上で、「公民館等の社会教育施設を活用するなど、地域コミュニティにおける多様な主体の関わりの中で防災に関する教育の普及推進を図るものとする」としている。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、体験活動を通して、子どもたちが防災の意識や災害時に対応する力を高めることができるプログラムを開発するものである。

(2) 道及び道教委の主な関連施策

・北海道総合教育大綱 基本方針Ⅰ 新たな社会を生きる力を育む「防災教育の充実」

自助、共助、公助など、住民の防災意識の向上を図るとともに、「世界津波の日高校生サミット」で得られた知見や大規模災害の対応経験を活かして、防災に関する思考力や判断力、行動力を高め、地域の安全に貢献できる力を育む防災教育の充実を図ります。

また、東日本大震災時の津波訴訟に係る司法判断を踏まえ、児童生徒の安全を確保します。

・北海道教育推進計画 施策項目 26「学校安全教育の充実」

消防等の関係機関と連携した避難（防災）訓練の実施などを通して、災害発生時における児童生徒の安全確保体制の充実を図る取組を推進します。

・第3次北海道生涯学習推進基本構想 視点3 1-(5)「防災に関する学習の推進」

未曾有の災害となった東日本大震災を踏まえ、一人ひとりが有事に行動できる資質・能力を育成するため、自然災害等の危険性について理解を深めるとともに、自ら安全に行動するための実践的な学習機会の提供が必要です。

(3) 各施設実施プログラムの概要

砂川	防災キャンプ	
令和2年11月15日（日） （日帰り）		避難所体験、防災食づくり、防災ゲームなど
深川	ネイパル深川 家族で防災キャンプ	
令和2年12月13日（日） （日帰り）		心肺蘇生トレーニング、着衣泳体験など
森	ネイパル防災キャンプ	
令和2年9月21日（土）～22日（日） （1泊2日）		救急救命講習、災害食づくり、避難所運営ゲームなど
北見	防災キャンプ	
令和元年11月14日（土）～15日（日） （1泊2日）		段ボールベッド体験、防災ゲーム、避難訓練など
足寄	ネイパル防災キャンプ in あしよる	
令和2年11月7日（土）～8日（日） （1泊2日）		講話、避難所生活体験、災害食試食、防災ワークショップなど
	防災キャンプ	
令和2年9月19日（土）～20日（月） （1泊2日）		講話、非常食試食、応急処置など

防災キャンプ

1 事業のねらい

防災用品や避難所についての知識を高め、日頃の備えや災害時の対処方法について、仲間との交流を通して学びを深める。

2 事業の概要

- 期日 R2.11.15(日) 日帰り
- 対象 小学4年生～中学生
- 人数 16名
- 場所 ネイパル砂川
- 協力 砂川市役所総務部市長公室課防災対策係

3 プログラム

9:45	10:00	11:40	12:45	13:40	14:30	15:00
受付	出合いの集い	活動1「避難所体験」 ・防災グッズにふれる ・災害用トイレ体験 ・段ボールベッドを作ってみよう	活動2 「防災食作り&防災ゲーム」 ・ハイゼックス袋を用いた「血液さらさら釧路いわしカレー作り&炊飯」 ・防災カードで神経衰弱	昼食・休憩	活動3 「防災クイズに挑戦」	別れの集い 解散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 避難所生活を実感するアクティビティ
 - ・砂川市防災対策係の協力により、避難所における「T(トイレ) K(キッチン・食事) B(ベッド)」の話や、実際に段ボールベッド、段ボールトイレを使うなどして、避難所生活を具体的に知ることができるようにした。
 - ・北の災害食レシピから、釧路いわしカレーを作り、日頃の備蓄食材等について考えられるようにした。
- 災害時にふさわしい行動を考える
 - ・防災ゲームやクイズを通して、備蓄品や災害時の行動を考えたほか、グループやペアで交流を行うなどして、学びを深められるようにした。



段ボールベッドの寝心地を確認



防災クイズを通して学びを深める

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・「適切な行動」に関わる項目について、肯定的な評価をした参加者が87.5%であった。また、「防災意識」に関わる項目についての肯定的評価は62.6%にとどまった。
- 参加者の声
 - 〈肯定的な意見〉
 - ・防災についてもっといろいろ学びたい。
 - ・私の町は川に囲まれているので、もし自分の待ちに災害が来ると怖いと思った。
 - 〈否定的な意見〉
 - ・知っていることが多かった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートにおいて、「適切な行動」についての評価が高かったことから、避難所生活の疑似体験や防災クイズにより、災害が起こったときの行動を考えることができたものと考えられる。
- 「防災意識」をさらに高めることができるよう、発達段階に応じた課題を用意するほか、複数回の事業実施を視野に入れ、検討する必要がある。



企画のポイント

災害の状況をイメージできるような疑似体験と災害時の行動をじっくり考える場の設定

家族で防災キャンプ

1 事業のねらい

防災をテーマとした体験活動をと
おして、自分自身の命を自分で守る
自助、周りの人と助け合う共助の意
識を育み、災害時に対応する力を高
める。

2 事業の概要

- 期日 R2.12.13(日) 日帰り
- 対象 小学4～6年生とその保護者
- 人数 4名
- 場所 ネイパル深川 深川市温水プール ア・エール
- 協力 能條 歩氏 (北海道教育大学岩見沢校教授)
菅井 宏氏 (深川市温水プール ア・エール指導員)

3 プログラム

12	13	14	15	16	17
	受 付	開 会 式	心肺蘇生 トレーニング	着衣泳体験	閉 会 式

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 自分や周りの人の身を守るためのアクティビティ
 - ・「着衣泳体験」において、水の事故の際に流れに逆らわず浮いて待つことを体験的に学ぶことで、災害時には自分を守るために落ち着いて対応することの重要性を理解できるようにした。
 - ・「心肺蘇生トレーニング」では、胸骨圧迫や圧迫止血のやり方、AEDの使い方などを体験し、いざという時に人の命を助けることの大切さを学ばせるようにした。
- 自助、共助の意識を高め、自分にできることを考える
 - ・救急時の役割分担のロールプレイにより周りの人と助け合う意識を育み、人を助けるための行動変容を促した。



AEDの使い方を確認



着衣泳体験「浮いて待つ」を体感

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・すべての参加者が「日ごろからどのような準備が必要か考えることができた」と回答した。
 - ・ほとんどの参加者が「災害や事故のとき、どうしたらよいか考えることができた」、「今日の体験のほかにも防災について学んでみたいと思った」と回答した。
- 参加者の声
 - ・もし周りで倒れた人がいたら助けたいと思った。(子ども)
 - ・服のままだと思った以上に泳ぎにくかった。(子ども)
 - ・AEDが置いてある場所を確認しておきたい。(子ども)
 - ・プールに入るのは抵抗がある。(保護者)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートで、「災害や事故のとき、どうしたらよいか考えることができた」との回答が多かったことから、参加者は体験的な活動をとおして、災害時の適切な対応を学ぶことができたものと考えられる。
- 災害時に対応する力を身に付けることができるよう、抵抗感がなく、参加しやすいプログラムの工夫や配慮をする必要がある。



企画のポイント

自助・共助の意識を具体的な
体験プログラムをとおして考
える場の設置